

## 地方民鉄紀行

## 高尾登山電鉄株式会社



都心から1時間程度で行くことのできる自然の宝庫、高尾山。登山を助ける高尾登山鉄道のケーブルカーやリフトが、高尾の自然をより身近なものにしてくれる。

ミニ シュランガイドで三ツ星。獲得したのはレストランではなく、東京都八王子にある高尾山だ。

レストランの格付けで有名なミニシュランガイドには観光名所の格付けガイドもあり、高尾山は2007年に続き、2009年発行のガイドでも三ツ星を獲得。東京都心から約1時間という手軽さに加え、スタンプラリーや若葉まつりといったさまざまなイベントが登山客を集めている。

麓から山腹までを結ぶケーブルカーとリフトを運営する高尾登山電鉄でも、年平均6回、野草の観察会を実施しているという。運動不足の身に「登山」はハードルが高いけれど、途中までケーブルカーを利用するこの観察会ならば……ということで、「野草観察と精進料理を味わう会」に参加することに。

## 大人気の観察会

高尾山の最寄り駅「高尾山口」まで新宿から京王線で約1時間。そこから集合場所のケーブルカー「清滝駅」までは徒歩5分だ。会の講師は植物研究家の菱山忠三郎先生。高尾登山電鉄の担当者も添乗してくれる。

朝9時30分、参加者が揃ったら、日本一を誇る急勾配のケーブルカーで一気に海拔472mに位置する「高尾山駅」へ。さっそく山腹にある「高尾山薬王院有喜寺」の参道につながらる1号路の野草を観察しながら、同じく山腹に造られた野草園に向かう。

「あそこに咲いているのは×××ですか？」

「あれは……」。メモとカメラを手にした参加者から、次々と質問の声があがる。

この観察会は人気が高く、30名の定員は毎回ほぼ満員になる。「定期的に来ないと花の時期を逃してしまっし、ここに来ることが趣味なの」という方も多く、この日の参加者も半数近くがリピーターだった。顔なじみになっている方が多い分、雰囲気は和やかで質問もしやすい。

## 下を向いてゆっくり歩く

薬王院の寺域として守られてきた高尾山は、標高599mと低山であるにもかかわらず、1300種におよぶ豊かな植生が保たれている貴重な山だ。野草園では、高尾山に自生しているものを中心に、約250の野草を見ることが出来る。きっちりと区分けして植えられているわけではないため、自由気ままな「野草」の風情が感じられる。

シラン、キンラン、タヌキラン、ヒメウス、セッコク、ハナイカタ。耳慣れない単語が先生の口から次々と出てくる。知識のない身には呪文のように聞こえるが、これらはすべて野草の名前。

「『雑草』なんて草花はないんですよ。全部に名前があるんです」

先生の解説を聞いてみると、個人で行っていたら目に留めなかっただろう草花の一つ一つが本当に特別なものに思えてくる。

野草園を出ると、次は薬王院に向けて参道をゆっくり散策。きれいに整備された参道は



赤い帽子が菱山先生

## 高尾山ケーブルカー・リフト

ケーブルカーは高尾山の麓、清滝駅から山腹の高尾山駅までを約6分で、リフトは同じく麓の山麓駅から山腹の山上駅までを約12分で結ぶ。ケーブルカーの勾配は最大で31度18分と日本一を誇っている。

京王線  
高尾山口  
山上駅  
リフト  
高尾山リフト  
ケーブルカー  
清滝駅



豪華な薬王院の精進料理



エイザンスミレ。  
葉っぱの形が特徴的



ハナイカダ。葉っぱの上に花が咲く

観察会の締めくくりは薬王院の精進料理だ。いくつもの小鉢が並んだお膳はとても豪華。ふんだんに使われている野草が何か、さっそく質問の声があがる。さすがの先生も調理された姿では判別が難しいようで、添乗員さんがお品書きを取り寄せたり、厨房に聞きに行ったり。季節によって使われる野草が変わるため、リピーターの方々も毎回、何が出てくるか楽しみだとか。

楽しみはもう一つ。精進料理のお膳には、言葉の添えられた薬王院の絵葉書が付いてくるのだが、言葉には「挫けない」「一念発起」などパターンがたくさんあり、「毎回なんとなく、はっ」とさせられる言葉がくるのよね」

### 自然の恵みをいただく

歩きやすく、「登山」の苦しさはない。道の両側に立ち並ぶ背の高い杉やヒノキが見事だが、参加者の視線はやはり下を向きがち。石垣にひっそり咲いたエイザンスミレの一株にカメラが集中する。

平日にもかかわらず参道には人通りが絶えないため、時折、「少し端によってください」と添乗員さんから声がかかる。

高尾山の登山客はミシユラン以降、増加を続けている。外国人旅行者より、むしろ高尾山の魅力に気づかされた国内からの登山客が増えているそうで、ケーブルカー・リフトの利用者数は昨年度、過去最高を記録したという。観察会も休日では登山者が多すぎるため、ゆっくり観察できる平日に行っているそうだ。

とのこと。

手許にきた絵葉書にあったのは、「悔いなき生き方を」。確かにはつとさせられる。

### 乗るか、歩くか

観察会は食後、薬王院で終了・解散だが、せっかくなので「悔い」を残さないように山頂まで行ってみる。

高尾山には難易度の異なる登山経路が全部で8つある。薬王院を経由して山頂まで続く1号路は、本社や奥の院の横を通るため、お参りをしながら登っていくことができる。比較的、初級者向けの経路であるため軽装の登山客が多く、中には小さな犬を連れた人の姿も見られる。

なだらかなアップダウンのある経路を歩くこと約15分。茶店やビジターセンターを備えた山頂に到着する。あつけないほどあつという間の登頂には少々、拍子抜けだが、さすがに山頂からの眺めは抜群。東京都心の高層ビル群はもちろん、横浜まで見渡せる。角度によっては東京スカイツリーも見ええるという。

たつぷり景色を楽しんでから、登って来た1号路を引き返し、再び境内を抜けて、ケーブルカー乗り場「高尾山駅」まで戻る。

1号路はこの「高尾山駅」とリフトの「山上駅」を経由して麓まで続いている。ここで疲れ具合に応じてそのまま歩いて下りるか、ケーブルカーかリフトに乗って下りるか、選ぶことができる。

さて、乗るか歩くか。どっしりよっ。



山頂からの眺めは最高



薬王院の本社